

第 10 回印西市補助金等評価委員会会議録

開催日時	平成30年12月21日(金)午後2時00分から午後3時00分まで	
開催場所	印西市役所 農業委員会 会議室	
出席者	委員	藤澤進議長、青木楠雄委員、池田明委員、岩井和子委員、佐々木護委員
	事務局	岩崎参事、石井係長、石井主査、小倉主査
議題	(1) [23] 社会福祉法人印西市社会福祉協議会に対する補助金について (2) 補助金等の評価結果報告書(案)について	
資料	・ 補助金等の評価結果報告書(案)	
会議結果	(1) [23] 社会福祉法人印西市社会福祉協議会に対する補助金について ・事務局からの説明を行い、訂正の承認をいただいた。 (2) 補助金等の評価結果報告書(案)について ・委員長及び事務局から説明を行い、一部訂正のうえ、承認をいただいた。	
議事要旨	【(1) [23] 社会福祉法人印西市社会福祉協議会に対する補助金について】 (事務局より説明) ・10月29日に開催いたしました、第7回補助金等評価委員会のヒアリングにおいて、「23番、社会福祉法人印西市社会福祉協議会に対する補助金」への質問に対する回答に誤りがあり、担当課より訂正の申し出がありましたので報告させていただきます。 委員より、「財務諸表から福祉(作業所)に関してはマイナスになっており、収入がなく支出だけの諸表になっている。他の施設がカバーして施設運営しているということですか。」という質問に対し、「適正に運営しております。」と回答いたしましたが、正しくは、「福祉作業所の運営については、平成28年度以前から委託していましたが、平成29年度から、福祉作業所を含む印西市総合福祉センターの指定管理業務委託になりました。平成29年度決算では、「福祉作業所」区分に当年度の収支を計上せず、新設の「印西市総合福祉センター」区分に計上し、「福祉作業所」区分にあった前期末支払資金残高を「印西市総合福祉センター」区分に繰り出して移行させているため、表記の仕方の関係で赤字となっておりますが、実質的には黒字です。」との回答に訂正をさせていただきます。 (質疑応答概要) 質疑無し。 【(2) 補助金等の評価結果報告書(案)について】 (委員長から以下の項目について説明あり) 1 公益の意識 2 更新時の手続き 3 補助対象の明確化	

- 4 補助率の見直し
- 5 補助金の効果の測定及び透明性の確保
- 6 統廃合
- 7 自助努力
- 8 補助対象団体の自立
- 9 補助金の交付時期
- 10 補助金評価の実施

(質疑・意見等)

【委員】

この補助金等評価報告書が今後、誰に対して、どのような形、流れで報告されるのかを説明をお願いします。また市民に対しても同様にどのような形で周知されるのか説明をお願いします。

(事務局)

評価報告書につきましては、今回の委員会において承認いただけましたら、軽微な文言の修正をした上で、来年1月11日に委員長から市長に対し、直接、報告書を提出していただくことを考えております。また併せまして、委員の皆様にも同報告書を送付させていただく予定でおります。補助金担当課へ対しましても報告書を送付し、今後どのように皆様から頂いた意見を補助金運営に反映させていくかを協議し、その結果を取りまとめていきたいと考えております。市民の方への周知につきましては、ホームページにより行い、また行政資料コーナーにおいても報告書を設置し、公開していくことを予定しております。

【委員】

市議会に対しての報告はどのように考えていますか。

(事務局)

市議会に対して、特別に報告はいたしません。

【委員】

自治体によってスタイルが違うと思いますが、補助金等評価委員会に携わった者の意見として、どんな形でも構いませんので、この報告書を議員の皆様に見ていただきたいと思います。

【委員】

この報告書を以って全てを把握することは困難であり、補助金の見直しが何故必要なのか、市の行政にとって補助金がどういった役割を担っているのか、そういったことも分かりにくい部分だと思いますので、委員会の設置や経緯、どのように評価したのかなど、簡単な概要を付して公表していただきたい。また、市のお知らせとして、補助金等評価について、どこに行けば閲覧できるかなどの案内をしてほしいと思います。委員会として評価しても、実際の補助金に報告書が反映、活用されないと意味は無いと思います。市民、市議会の補助金評価の目安の一つとして活用されるよう、周知方よろしく願いいたします。

【委員】

今回の評価委員会では補助金を相対的に評価しており、公益性、必要性及び将来性の評価が低く、存続は難しいと評価を受けていても、その補助金により活動している団体等にとっては重要な補助金であることには変わりはないと思います。総括の項目5、「補助金の効果の測定及び透明性の確保」にあるように、今後は補助効果を数値化し、測定できるようになると、今回評価が低く判定されている補助金についても、補助効果としての検証が可能となると思います。市にとって補助金は投資のようなものであり、投資をすれば効果を期待するものです。数値化することは困難であると思いますが、補助効果の数値化は必要であると思います。

【委員】

6「統廃合」の文中に「統合」とあり、標題と合わせた方が良いと思います。
(事務局)
修正させていただきます。

【委員】

8「補助対象団体の自立」についてですが、後段に「独立性確保、財政の強化などが図られるよう」とありますが、その部分に「組織の確立」若しくは「組織基盤の確立」を挿入しては如何でしょうか。財政的な面だけではなく、組織基盤を整えるということが将来に向かって必要になるのではないかと思います。
(事務局)
追加修正させていただきます。

【委員】

9「補助金の交付時期」についてですが、その都度精算払いすることになりますか。

【議長】

年度初めに全額に近い金額を概算として交付し、年度末に精算させている補助金が多いです。補助金によっては複数回に分けて交付するものもあります。

【委員】

文言についてですが、文末の「すべきである。」と「すること。」がありますので、ニュアンスが変わらないのであれば、「すべきである」に統一した方が良いと思います。
(事務局)
修正させていただきます。

【委員】

総括の本文中、(5)公益性、必要性、将来性が低いと評価された補助金等が17件ということで、評価対象38件に対して17件ですので、高い割合になっています。こういった補助金については今後、担当課及び直接の被補助団体、あるいは財政当局、市議会がどういった判断をされるのかに興味があります。前回の評価委員会においても、廃止すべきであると判

断された補助金についても、廃止にならず継続されている補助金もあります。その判断には意味があり、理由があったと思いますが、今回もそういった判断があると思います。この評価結果について、どのような判断がされるかを追っていかねばならないと思います。

【委員】

補助金というものは市民と行政が共生の社会を作っていくうえで、非常に重要な役割を担っていると思います。希望意見として、補助金をより躍動的に活用できる工夫の検討をしていただきたいと思います。

【委員】

事業が古くなったものは廃止を検討し、新しいニーズが生まれれば、そのニーズに対応する新しい補助金を作っていただくといった、メリハリの効いた運営を進めていただきたい。

【委員】

補助金行政は、各省庁から流れてくることが殆どであり、独自の補助金もありますが、国・県が何割かを負担していることが多くあります。否定はできませんが、各省庁からの補助金には、かなり似通った役割をしているもの、類似するものがあり、市民からしてみれば、どちらでも同じであることが多いです。補助金行政にも同じことが言えます。一つの課単位で検討を進めると、それが全てになってしまう。総合的な立場から、総務課が他課にまたがる課題について指導していただきたいと思います。個々のヒアリングだけでは出てこない課題等をまとめていただければ、補助金がより活用されるのではないかと思います。

【委員】

何年間も総予算額が変わらない補助事業が多くあります。補助率も予算額も変わらず、毎年見直しを行っているのか疑問です。事業の総額に対しても、補助事業である限りは見直す必要があると思います。そのようなことから、今回の委員会の評価する中で、どの部分を精査し評価すべきかという点で難しいと感じました。総額予算を組む時点で、精査する必要があると思いました。

【議長】

他にご意見無いようでしたら、この報告書につきましては、各委員から頂いたご意見、また文言の軽微な修正も含めまして、文意の変更はせず、私が修正するとしてご了解いただけますでしょうか。

((異議なし))

【議長】

それでは修正させていただきます。それでは以上で議事を終了させていただきます。

(事務局)

ご審議ありがとうございました。修正につきましては、議長と進めさせていただき、委員長より市長に報告をしていただきます。また、いただきましたご意見の内容につきましては、担当

課と協議してまいりたいと考えております。

補助金等評価委員会につきましては、本年7月24日から本日まで、概ね月に2回から3回のペースで10回の会議を開催し、38種の補助金等について評価をいただきました。この場をお借りして感謝の言葉を申し上げさせていただきます。ありがとうございました。

多くのご意見をいただく中で、5年前の補助金の評価、その結果を受けての評価として、今回どのような形で実施していく事が良いのかということを事務局において検討し、今回は相関図を作成し、見える化をしていく事といたしました。そうすることにより、市民の皆様に伝わりやすく、また市担当課、実際に活動されている各団体の皆様にもご理解をいただき、見直しを進めてまいりたいと考えております。今回の補助金の評価報告書につきましては、委員長から市長に対し、ご報告いただいた後、担当課をとおして、各団体へ伝えていく中で見直しの方向性を決めていきたいと考えております。事務局においても密接に連携し、補助金の見直しを進めていく事を改めて認識しております。また、補助金をより活用できるよう検討が必要であるとのご意見をいただき、縮小といったような見直しをするだけではなく、公共の分野については、行政と市民の皆様が協働といった形で行い、その上で必要となるのが補助金や連携、協力体制であると考えますことから、補助金が効果的に使え、活発化するようなあり方の視点を欠いてはならないと考えております。最終的には、印西市民の皆様の為に効果的に補助金等、市民の皆様また市役所の活動が繁栄して成果として実ってくれば、より良い街づくりに繋がっていくと考えております。行政改革の視点の中で、削るだけでなく、活用していく事を検討していきたいと思っております。本委員会は報告書の報告を以って、任期満了となります。しかしながら、今後ともご意見いただいたことも踏まえまして、市の行政運営に対しまして皆様にはご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成３０年１２月２１日に行われた印西市補助金等評価委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

会議録署名委員 藤 澤 進